



やさしく
かしこく
たくましく

平成28年10月24日(月)

文責：園田

学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

『いざ、読書。』

今回の読書
標語です。

『秋の読書週間』
10月27日～11月9日

子ども達が「かしこく、優しく、強く、そして逞しく」成長していくための大切な手段の一つが読書です。今週の木曜日、10月27日から11月9日(水)の2週間は、『読書週間』です。

終戦まもない昭和22年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。
◀ 社団法人 読書推進運動協会より ▶

人間は、「人から学ぶ」、「本から学ぶ」、「旅から学ぶ」とも言われます。

読書は子ども達にとって、その創造の羽を大きく広げ、生きるための豊かな情感を育むものでもあると思います。読書の効果や効用については、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につける上で欠かせないものである等、様々に言い尽くされていると思いますが、難しいことは抜きにして、とにかく『楽しい』行為ではないでしょうか。

本校でも読書の推進については常々、力を入れているところです。

今年、2016の読書週間標語は、「いざ、読書。」です。誰かを誘って読書に親しみませんか？学校でもこの期間にはいつも以上に読書活動に力を入れ、担当より「読書集会」・「読書祭り」等も計画されています。ますます、そしてじっくりと読書に親しんでほしいと思います。下記は読書に関する偉人の名言です。



真に素晴らしい本は内容以上のことを教えてくれる。その本を置き、仕入れた知恵を試したくなる。読むことで、行動せずにはいられなくなるのだ。



(ソロー：米国の作家、詩人)

宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして、何よりも、宝を毎日味わうことができるのだ。

(ウォルト・ディズニー：米国の実業家)

私が人生を知ったのは、人と接したからではなく、本と接したからである。

(アナートル・フランス：仏国の詩人、小説家)

◎ 今年度も、水曜日、朝の読書タイムの「読み語り」の時間には図書ボランティアとして、東風、やよい会、そして社会館のみなさんにお越しいただき『読み聞かせ』をしていただいています。子ども達もとても楽しみにしている時間です。読み聞かせボランティアの皆様、お忙しい中、いつもありがとうございます。

本校児童9月の貸出図書数

1年	239冊	一人平均	21.7冊
2年	288冊	一人平均	20.6冊
3年	183冊	一人平均	30.5冊
4年	172冊	一人平均	14.3冊
5年	190冊	一人平均	17.3冊
6年	110冊	一人平均	18.3冊

第61回読書調査によると2015年5月1ヶ月間の平均読書冊数は、小学生は11.2冊だそうです。左の数字は本年度本校児童9月の学年毎の貸出数と一人あたりの貸出数です。読書数と貸出数なので正確な比較にはなりません(借りたけれど読んでいない場合もあるので)、こうしてみると全国的な平均冊数よりも多く、本校の子ども達はよく読書をしている傾向がうかがえますね。大変うれしいことです。